

マダニの感染症「重症熱性血小板減少症候群」に注意しましょう

マダニによるウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の患者が、兵庫県豊岡市内で確認されました。

【マダニとは】

マダニ類やツツガムシ類は、野外のやぶや草むらなどに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウヒダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。マダニ類は、固い外皮に覆われた比較的大型（吸血前で3～8mm、吸血後は10～20mm程度）のダニで、主に森林や草地等の屋外に生息しており、市街地周辺でも見られます。人は農業・林業などの野外作業やアウトドアレジャーの際に咬まれることがあります。

これらのダニは病原体を持っていることがあり、咬まれると重症熱性血小板減少症候群、つつが虫病、日本紅斑熱やライム病などの感染症にかかる危険性があります。これらの疾患にかからないようにするためには、ダニに咬まれないことが重要です。

フタトゲチマダニ



※左上下 フタトゲチマダニ

※右上下 タカサゴキラマダニ（厚生労働省ホームページから）



【主なダニ媒介性感染症】

病名	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	つつが虫病	日本紅斑熱
原因	SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。	つつが虫病リケッチアによる感染症でマダニではありませんが、ダニの一種であるツツガムシに咬まれることで感染します。	日本紅斑熱リケッチアによる感染症でマダニに咬まれることで感染します。
潜伏期間	6～14日	5～14日	2～8日
症状	発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）等が出現し、重症化し死亡することもあります。	全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症します。咬口は皮膚の柔らかい隠れた部分に多く、発症後には不定型の発疹が出現します。	頭痛、倦怠感、高熱等
備考	平成21年に中国で初めて特定され、日本国内では、平成25年1月に初めて確認されました。西日本を中心に19例の報告があり、うち5例の方が亡くなっています。（平成25年7月22日現在）（致死率は10～30%）	重症になると肺炎や脳炎症状を来します。	

※ライム病は主に本州中部以北（特に北海道及び長野県）で見つかっています。

【ダニに咬まれないために】

ダニは、山林、草地、荒地などに生息しており、特に春から秋にかけて活動が活発になるので、注意が必要です。農作業、レジャーや庭仕事など野外で活動する際には、次の点に注意しましょう。

＜服装＞長袖・長ズボン（シャツのすそはズボンの中に、ズボンのすそは靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）

足を完全に覆う靴（サンダルは避ける）

帽子、手袋を着用

首にタオルを巻く ※肌の露出を少なくする。

衣服は明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）や化学繊維素材のもの（マダニがつきにくい）

＜屋外活動後＞入浴しマダニに咬まれていないか確認してください。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などがポイントです。

【ダニに咬まれたら】

ダニに咬まれても、痛みや痒みはあまりなく、気づかないことが多いようです。放置すると数日間吸着して吸血し続けますので、見つけたら早めに取り除きましょう。簡単に取れないことが多く、無理に取ろうとすると、つぶれたりマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがあります。

① ワセリンでマダニを窒息させて取る。

ワセリンやハンドクリームなどでマダニの虫体ごと刺咬部を被覆し、30 分ほど放置するとマダニが窒息するのでその後でティッシュペーパーなどで拭き取ります。

② すぐに取りえない場合

医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。マダニに咬まれた後（数日から2週間程度）、体調の変化に注意し、発熱・発疹等の症状があった場合には、早めに医療機関を受診しダニに咬まれたことを伝えてください。

問い合わせ・相談窓口

福崎町保健センター

電話 27－8608

中播磨健康福祉事務所地域保健課

電話 22－1234

※マダニによるウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」に関する情報は

- 「重症血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（第2版）」（厚労省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 「ダニ媒介性感染症の予防について」県HPに掲載
<http://web.pref.hyogo.lg.jp/chk06/dani.html>